

これがオススメ! 読み聞かせ本

全学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

これは「母の目」の本です。「1ねん1くみ」シリーズの作者らしいわんぱく茶目っ氣ぶりが随所に散りばめられていて、読み始めると一気に盛り上がります。母親と息子のユーモアあふれる必死の葛藤と情愛が感じ取れてはっとします。

親子一緒に思い出に残る出来事を回想してみると、次のステップに自信をもって踏み出せるのではないのでしょうか。保護者会で読み語るのもいいですね。

保護者には「こういう子育てをしていれば、大丈夫!」この男の子はたくましく優しい子に育っていきますよ」というメッセージを、子どもには「息子君、あなたはすばらしい。自分の思いを素直にぶつけていけるから」というエールを、それぞれ贈れる内容です。

子どもたちはニコニコして



おかあさん、げんきですか。

後藤龍二／作
武田美穂／絵
(ポプラ社)

友達と目でコンタクトを取りながら聞いています。絵のもつ力もある本です。

「カオルちゃん」という友達、頼りがいがありそうで、主人公とともに今時の男の子と女の子を象徴しています。どのクラスにもいるような2人です。

ゲーム世代の子どもたちに、本の世界と真心を生の声で伝えていきましょう。すぐに結果はみえないかもしれませんが、しかし本を聞いている時はみんな静かです。言葉のシャワーと教師の愛情を、子どもたちはききと感じていると思います。みんなが笑って情愛を感じる1冊です。この7年間、絵本を通してたくさんの子どもたちと仲良くさせてもらいました。本を読み語ることは心と心を繋げることで、「読み語り」がずっと続いていくことを願っています。